



荒神社(船本)

平成十一年六月鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。
平成十六年、県道藤戸早島線改修工事に伴い境内神社の恵美須神社の移転を余儀なくされ、場所を移して改築する事となり、同年九月二十六日仮殿遷座祭、平成十七年十月七日荒神社拝殿へ新調された本殿を搬入、平成十八年五月二十八日日本殿遷座祭を執行した。
祭典は年始祭を一月十日、春祭を五月第四日



改築された恵美須神社

曜日、秋祭を十月二十七日に執行しており、恵美須神社は一月十日に恵美須祭として行われている。

15 厳島神社 (弁才天)

鎮座地 都窪郡早島町早島二二二九
境内地 九三九.9m²
祭神 市杵島姫命

祭神の市杵島姫命は厳島神社(廿日市市宮島町)の祭神であるが、七福神の弁才天(女性の仏神)と同一視される事もあった。
そのために弁才天に置き換えられた祭神の名称をとって、この地区を弁才天と呼ぶ。

創祀は不明であるが、古くからこの地に祀られていた。明治二十五年本殿、拝殿の修理を行うと同時に、社殿の向きを東向きから北向きに変更した。
天満宮と同様に昭和三十九年一月鶴崎神社へ



改築前の厳島神社(弁才天)

の合併の承認申請を行い、平成十一年四月認証され、鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。
社殿の老朽化により改築を行う事となり、平成十七年七月八日仮殿遷座祭、同九月十日地鎮祭、同十一月六日日本殿遷座祭同十一月二十三日竣工奉祝祭を執行した。
平成十八年二月二十六日には内祀用の本殿も新調して、本殿遷座祭を執行した。

14 荒神社 (船本)

鎮座地 都窪郡早島町前潟一六四
境内地 四八八.六六m²
祭神 火之迦具土神

昭和十一年に社殿を改築した際の寄付石に「延宝年間(1673~1688)に前潟全土の開墾

まつて行った。
江戸時代には幕府が全国に寺子屋を設立することを奨励し、その精神的中心として道真公の分霊を祀らせたので、学問の神様として崇められるようになった。
昭和三十九年一月鶴崎神社への合併の承認申請を行い、平成十一年四月認証され、鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。
天満宮の名称は古い登記簿を見ると「天満天神社」となっており、何時の時代か定かではないが天満天神社と呼ばれていた事があつたようである。
社殿の老朽化により改築を行う事となり、平成十六年七月二十六日仮殿遷座祭、同八月二十日地鎮祭、平成十七年一月三十日日本殿遷座祭、同二月二十七日竣工奉祝祭を執行し、「早島草太鼓」の奉納や甘酒の接待で竣工を祝った。
祭典は、五月第一日曜日に「大祈禱」と称する長津地区の安全祈禱が行われ、七月第四日曜日には、夏祭が執行される。夏祭には氏子の協力で行灯が掲げられ出店やバザーで大いに賑わう。



荒神社(大正9年頃)

工事が完成し、美しく青い田が眼前に展開すれば、国家安全と五穀豊穡を祈願して、早島町市場千光寺境内に鎮座の荒神社から御分霊を奉祀する。」と刻されている事から創建は延宝年間と思われる。
また、宝暦十一年(1761)には荒神社の前の汐入川から、船で大阪に晝表を送ったとの記



汐入川を進む帆船(大正12年)

録もあり、船本津出場(船積場)として早島の港の要衝であった。
棟札によると、明治三十五年十月本殿・幣殿・拝殿修理、昭和十一年幣殿・拝殿改築、昭和三十八年十月本殿屋根檜皮葺き替え、昭和五十七年十月本殿屋根葺き替え、平成九年五月社殿修復と記されている。
昭和五十七年の本殿屋根葺き替えの時にそれまでの檜皮葺きから銅板葺きに改められた。
昭和十一年の改築時には中華民国青島四方在住の児島熊吉氏が二千二百五十円を寄進している。